



関東中央病院 Memories 思い出のアルバム No.7

このシリーズは、平成5年（1993年）1月から、「緑のひろば」で12回にわたって連載された記事の再掲載です。



敷き詰められた芝生の上で。
患者さんのどてら姿に時代が感じられます。



咲きみだれる紅白のバラ園で遊ぶ子供たち。
「あっかんべー」はカメラを向けた看護婦への親愛の情でしょうか。



プロの手によって植栽された桜ヶ丘。
患者さん、近隣の人の憩いの場となっています。

まだ建物が木造だった頃、病棟と病棟の間には芝生が敷き詰められ、花壇には色鮮やかなバラが咲き誇っていました。

芝生では医師たちが診療の合い間に寝そべって歓談したり、相撲を取ったりしていました。また、夕方になると、芝生にテーブルやイスを持ち出して食事会を開いたり、たいへんのどかであったようです。

バラ園のバラは公立学校共済組合の近隣支部から寄贈して頂いたものもあり、バラの手入れを専門にする職員がおりました。小児科病棟の看護婦は天気の良い日には子供たちをバラ園に連れ出して情操に生かしてました。



屋外食事会

現在、正面玄関前ロータリーや桜ヶ丘（通称：世田谷通りと駐車場の間の丘）には樹木等の植栽を施し、ベンチを置いています。もちろん、芝生や樹木の手入れは造園業者に依頼しています。ところが空缶やゴミの投げ捨てが多く、また犬を散歩させて後始末をしない人があり、管理には意外と「手」がかかっています。